令和７年10月
「次代を担う高校生議会」会議録

令和７年10月22日開会
令和７年10月22日閉会

綾 部 市 議 会

「次代を担う高校生議会」会議録

目　次

第１日　　　　　　　　令和７年１０月２２日

「次代を担う高校生議会」会議録目次

○第１日（１０月２２日）

１．議事日程 …… １

２．本日の会議に付した事件 …… １

３．議事順序 …… １

４．会議に出席した高校生議員 …… １

５．会議に出席した議員 …… １

６．会議に欠席した議員 …… ２

７．議事に関係した議会事務局職員 …… ２

８．会議に出席した説明員 …… ２

９．松本議長の開会宣告 …… ３

１０．意見発表 …… ５

○　飯田春輝高校生議員の意見発表 …… ５

○柳原秀一議員のコメント …… ７

○　玉木千太郎高校生議員の意見発表 …… ７

○河北ひさ子議員のコメント …… ９

○　中川翔太郎高校生議員の意見発表 …… １０

○酒井裕史議員のコメント …… １１

○　吉田碧桜高校生議員の意見発表 …… １２

○梅原哲史議員のコメント …… １４

○　伊藤優花高校生議員の意見発表 …… １４

○藤岡康治議員のコメント …… １６

○　稲垣友菜高校生議員の意見発表 …… １６

○後藤　光議員のコメント …… １８

○　金田幸太高校生議員の意見発表 …… １９

○井田佳代子議員のコメント …… ２０

○　戸川望愛高校生議員の意見発表 …… ２１

○渡辺小百合議員のコメント …… ２２

１１．片岡委員長の閉会宣告 …… ２６

「次代を担う高校生議会」会議録

令和７年１０月２２日

（第１日）

綾　部　市　議　会

「次代を担う高校生議会」会議録

令和７年１０月２２日（水）（第１日）
午後１時４４分　開議

１　議事日程

第１　　意見発表

２　本日の会議に付した事件

日程第１　　意見発表

３　議事順序

開　　会　午後　１時４４分
開会宣告
意見発表
休憩宣告　午後　２時３８分
再開宣告　午後　２時５４分
意見発表
閉会宣告
閉　　会　午後　３時４４分

４　会議に出席した高校生議員（８名）

飯　田　春　輝	玉　木　千太郎
中　川　翔太郎	吉　田　碧　桜
伊　藤　優　花	稲　垣　友　菜
金　田　幸　太	戸　川　望　愛

５　会議に出席した議員（１８名）

１番	塚　﨑　泰　史	２番	吉　崎　篤　子
３番	河　北　ひさ子	４番	渡　辺　小百合
５番	後　藤　　　光	６番	井　田　佳代子

７番	中　島　祐　子	８番	藤　岡　康　治
９番	酒　井　裕　史	１０番	梅　原　哲　史
１１番	柳　原　秀　一	１２番	片　岡　英　晃
１３番	種　清　喜　之	１４番	安　藤　和　明
１５番	渡　辺　弘　造	１６番	高　橋　　　輝
１７番	本　田　文　夫	１８番	松　本　幸　子

６　会議に欠席した議員（０名）

７　議事に関係した議会事務局職員（３名）

事務局長	三本木　紀　子
次　　長	上　田　英　之
次長補佐	大　槻　江　美

８　会議に出席した説明員（２名）

市　　　長	山　崎　善　也
副　市　長	岩　本　正　信

開会　午後　１時４４分

○片岡英晃委員長　　皆様本日はお忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいまから、綾部市議会設立７５周年記念「次代を担う高校生議会」を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます綾部市議会議会運営委員長の片岡英晃でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、綾部市議会松本幸子議長が御挨拶を申し上げます。

○松本幸子議長　　本日は、綾部市議会設立７５周年を記念しまして「次代を担う高校生議会」を開催させていただきましたところ、綾部高等学校の生徒の皆さんをはじめ、先生方、また保護者の皆様には、お忙しいところ御出席をいただき、ありがとうございます。

また、山崎市長様、岩本副市長様には公務大変お忙しい中御出席をいただき、誠にありがとうございます。

この時代を担う高校生議会の開催に向けては、７月にアニバーサリー講座として高校生の皆さんと事前学習を開催し、グループワークを行いました。その中で、綾部のよいところや、こうすればもっと楽しいまちになるのではといった意見がたくさん出され、私たち議員にとりましても、若い皆さんの御意見を聞かせていただくとてもよい機会であったと思っております。

本日は、アニバーサリー講座に御参加いただいた２年生の皆さんの中から、８名の高校生議員に、ふるさとへの思いや綾部市がもっと元気になる提案などを発表していただきます。その中で、これはと思う内容については、ぜひ今後、議会からも綾部市へ一緒に提案をさせていただくよう考えていきたいと思います。

ここにおられる高校２年生の皆さんは、来年になれば選挙権が得られ、投票に行くことができます。きっと、政治や選挙がさらに身近なものに感じられることと思います。本日の高校生議会を通して、地方自治への関心を高め、若い世代の感じている課題や、将来こんなふうにしたいという声をもっと政治に届けることが必要であるということを感じていただく機会となれば幸いでございます。

本日はなれ親しんだ学校とは違い、この議場ということで緊張もあろうかと思いますが、どうか自分の思いを堂々と発表していただくことを御期待申し上げまして、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。どうか本日はよろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　　次に、本日の日程につきまして御案内いたします。

本日は、京都府立綾部高等学校２年生の１組、２組の生徒さんを代表して、８名の皆さんに高校生議員として発表していただきます。また、傍聴につきましては、この議場のほかに、委員会室のモニターでも傍聴していただけます。発表は、議長の指名により高校生議員が順

次登壇し発表していただきます。発表後、市議会議員からコメントをいたします。前半４人の発表が終わりましたところで１５分間の休憩を挟み、再開後、後半４人の発表を行います。会議の終了は午後４時頃を予定しておりますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いただきます皆さんを御紹介いたします。なお、本日は高校生議会であり、発表者の皆さんを議員とお呼びいたします。では、お名前をお呼びしましたら、その場で御起立ください。

飯田春輝議員。玉木千太郎議員。中川翔太郎議員。吉田碧桜議員。伊藤優花議員。稲垣友菜議員。金田幸太議員。戸川望愛議員。

以上８人の皆さんです。よろしくお願いいたします。

続きまして、綾部市の出席者を御紹介いたします。山崎善也綾部市長です。

○山崎善也市長　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　岩本正信副市長です。

○岩本正信副市長　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、市議会議員を紹介いたします。まず中央、松本幸子議長。

○松本幸子議長　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　本田文夫副議長。

○本田文夫副議長　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　皆様から向かって右側から、柳原秀一議員。

○１１番柳原秀一議員　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　河北ひさ子議員。

○３番河北ひさ子議員　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　酒井裕史議員。

○９番酒井裕史議員　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　梅原哲史議員。

○１０番梅原哲史議員　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　藤岡康治議員。

○８番藤岡康治議員　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　安藤和明議員。

○１４番安藤和明議員　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　高橋輝議員。

○１６番高橋　輝議員　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　　種清喜之議員。

○１３番種清喜之議員　　元気いっぱい頑張ってください。

○片岡英晃委員長　　塚﨑泰史議員。

○１番塚﨑泰史議員　　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　　中島祐子議員。

○７番中島祐子議員　　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　　続いて、皆様から向かって左側の席、後藤光議員。

○５番後藤　光議員　　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　　井田佳代子議員。

○６番井田佳代子議員　　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　　渡辺小百合議員。

○４番渡辺小百合議員　　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　　吉崎篤子議員。

○２番吉崎篤子議員　　よろしくお願いいたします。

○片岡英晃委員長　　渡辺弘造議員。

○１５番渡辺弘造議員　　よろしくお願いします。

○片岡英晃委員長　　そして、私片岡英晃でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行を松本議長よろしくお願いいたします。

○松本幸子議長　　では、これより日程に基づき、本日の会議を開きます。

日程第一、「意見発表」に入ります。

それでは、高校生議員が順次意見発表を行い、その発表について市議会議員からコメントをいたします。

では、初めの発表者、飯田春輝議員の登壇を許します。

飯田春輝議員。

○飯田春輝議員　　皆様、こんにちは。私は綾部高校２年の飯田春輝と申します。

私は綾部市の歴史と文化について発表します。よろしくお願いします。

まず、綾部市のよいところを挙げるとなったときに、いろいろな人の意見を聞くと、グンゼや二王門という言葉がよく出てきます。こうした回答からは、養蚕や繊維産業の歴史、そして地域の文化を感じることができ、綾部の人々にとってそれらは誇れるものである証拠だと言えます。だからこそ、綾部市の歴史、文化は、綾部市をより活気のあるまちにしてくれる大切な資源だと思います。

まず綾部市の重要な歴史として、黒谷和紙があります。調べたところ、黒谷和紙は約８００年の歴史を持ち、綾部だけでなく、世界遺産である二条城のふすまにも使用されるなど、

日本の歴史に深く関わってきたということが分かりました。黒谷和紙の最大の魅力は、実際に紙すき体験ができることです。

こういった体験型の観光は、その地を訪れた際に、見る、知るのみではなく、歴史や伝統を肌で感じることができ、記憶に残りやすく、外国人の方を含めたくさんの観光客を呼び込む魅力的なコンテンツになると考えます。ちなみに、２０２４年度に京都市を訪れた外国人観光客は、過去最高の１，０８８万人に達し、オーバーツーリズムが深刻な課題となっています。この課題を解決するためには、外国人観光客をはじめ、多くの方に情報を届け知ってもらうことが重要です。その手段としてＳＮＳの活用がとても有効だと考えます。

一つの例として、黒谷和紙の紙すき体験の完成品を、若者や外国人がＳＮＳに載せたいと思えるようなかわいい物にしたり、写真映えするような物にすることで、より魅力や満足度など特別感が高まり、実際に訪れて、インスタグラムなどのＳＮＳで拡散したいと思えるようなものになるのではないかと考えます。また光明寺二王門も大切な観光資源です。そこではまさに日本の歴史や文化を感じるような京都府北部唯一の国宝建造物を見ることができますし、近くにはあやべ温泉があり、外国人をはじめとする観光客が歴史や文化を堪能するのにとてもよい場所です。さらにあやべ温泉にはキャンプ場や巨大迷路といった大人から子どもまで楽しめる施設があるので、それらを総合的な魅力として一体的にＰＲすることで、綾部に訪れる人を増やせると考えます。

さらに体験においても、地域住民とともに汗を流す農業体験や、市内で増加している空き家の活用など、地域の暮らしそのものに関わる体験を通じ、旅行者が地域づくりの仲間、いわゆる関係人口になりたいと思えるような取組が重要です。そして、その関係人口を将来的にＵＩターンにつなげることこそ、綾部市を持続可能なよりよいまちにしていく上で大変重要だと考えます。限界集落を水源の里と逆転の発想で位置づけたのと同じように、古民家や農村での生活など、一見不便で古くさく見えるようなものこそ、磨くことで綾部市の魅力や価値を高め、都市部や海外の人が引きつけられるまちになると考えます。

私は、以上のような取組を進めることで、綾部市の魅力である地域の歴史や文化を守り育て、持続的に次の世代に受け継いでいくことができると考えます。そのためには、まず私たち綾部市民が、積極的に綾部を知り、発信しようとする姿勢が大切だとも感じています。

以上のことから、まとめといたしまして、綾部市が持続可能なよりよいまちになるには、観光や交流をきっかけに綾部を訪れた人が、綾部の歴史、文化を通して地域に関わり続けたいと思えるようなまちにし、将来のＵＩターンにつなげていくことが大切だということを御提案申し上げ、私の発表を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

〇松本幸子議長　　柳原秀一議員。

○１１番柳原秀一議員　　失礼いたしました。

飯田議員、ただいま大変すばらしい御発表をいただき、誠にありがとうございました。綾部市の歴史や文化に対して深い理解を持ち、それを未来につなげていこうとする力強いお考えに、心から敬意を表します。

まず、黒谷和紙や光明寺二王門といった綾部の誇るべき文化資源に焦点を当てられた点は、非常に意義深いものだと感じました。黒谷和紙は長い歴史を持つ伝統工芸であり、その技と美しさは、まさに綾部の文化を象徴するものです。また光明寺二王門は京都府北部で唯一の国宝建造物であり、歴史的、文化的価値が極めて高い誇りある文化遺産です。そういった文化資源を、体験型の観光やＳＮＳを活用した情報発信によって広く伝えていこうという御提案は、まさに時代の流れを的確に捉えた実践的なアイデアだと感じました。さらに、京都市の外国人観光客のデータを踏まえ、具体的な誘客の可能性を数値で示された点も、非常に説得力がありました。

単なる理想論ではなく、実際の政策にもつなぎやすい視点であり、市政に携わる者としても大いに参考になる内容でした。また、観光で終わらせないというお言葉も印象的でした。

外から来ていただくだけでなく、地域と関わりを続けたいと思っていただく。すなわち、関係人口の創出は、地方都市にとって今後ますます重要になる視点です。空き家の活用や農作業体験といった暮らしそのものの魅力を高める取組を通じて、観光客は、一時的な来訪者ではなく、地域の仲間として関わり続けていくことができれば、綾部の持続的な発展に大きく寄与するものと考えます。そして何よりも、そのようなすばらしい視点を若い世代の皆様が自らの言葉で語ってくださったことに、私は大きな希望を感じました。

地域の未来を担う若い世代が、自分たちのまちの歴史と文化を誇りに思い、その魅力を発信しようとする姿勢こそ、まちづくりの大きな力になると改めて強く感じております。

私たち市議会議員としても、こうした皆様の思いや視点をしっかり受け止め、今後の施策や議論の中で生かしていけるよう努めてまいります。

飯田議員、本日は本当にありがとうございました。

○松本幸子議長　　では、次の発表者、玉木千太郎議員の登壇を許します。

玉木千太郎議員。

○玉木千太郎議員　　私は綾部高校２年生の玉木千太郎と申します。私は綾部高校の取組と地域のつながりをテーマに発表します。

綾部高校は、京都府綾部市にある１００年以上の歴史を持つ伝統校です。地域との深いつながりを大切にしながら教育活動に取り組んでいます。綾部高校の特色の一つには、総合的な探究の時間を活用した地域課題探究学習というものがあります。この時間を通して生徒たちは自らテーマを見つけ、調査、取材、分析を行い、最終的には発表という形でまとめます。

私は、この探究活動でごみのポイ捨て問題に注目しました。最初は登校中のペットボトルがこんなところに捨てられているという何げない気づきから始まりました。公園や道路沿いなどを何度も自転車で登校するのですが、実際にごみを意識すると、ペットボトルや空き缶、たばこの吸い殻など、思っていたよりも多くのごみが落ちていて、正直驚きました。

そこで、どこのどんなところで落ちているごみを見つけたのかと、その原因を考えてみました。すると、私が見つけたごみの多くは、道路の端の水路や草花の間などに落ちていることが多いことが分かりました。また、歩道上に落ちているごみは見たことがないことにも気がつきました。これは単に地域の人が歩道にあるごみを拾ってくれていただけかもしれません。しかし、私はこのポイ捨て問題について一つの仮説を立てました。それは、私が見た多くのごみは車から投げ捨てられている物が多いのではないかという仮説です。残念ながらこの仮説を確かめる手段は、実際に見たわけではないのでありません。ですが、車からのポイ捨てなど、どんなポイ捨ても一つの捨てるのが面倒くさいという共通認識があると考えました。そして、どうすればポイ捨てをなくすことができるのかを考えました。

綾部高校では由良川クリーン大作戦というものを毎年行っています。今年は６５キログラムものごみを回収できたそうです。また、私の地域の川では、アカザという水質のきれいな川にしか生息しない魚を発見するなど、綾部市は川のきれいさには定評があると考えました。しかし、路上のポイ捨てには対策があまりないように感じました。

そして私がたどり着いたのは、ごみを捨てさせないことではなく、正しいところにごみを捨てさせるとポイ捨て問題は大きく減少するのではないかという考えです。これができれば、綾部市はグリーンセンターでお金を払ってごみを捨てているということもあるので、経費の削減にもつながると思います。そしてその政策は、ペットボトル、空き缶、お菓子のごみなどのポイ捨て用の多目的ごみ箱を設置、増やすことです。実際に私はペットボトルでいっぱいにあふれているごみ箱、ペットボトルがそのごみ箱の横に散乱している姿を多く見てきました。これは、ごみを捨てる場所さえあればポイ捨てをしないということを裏づけていると考えます。そしてシンプルですが、ごみを自由に捨てられるところが増えると、捨てるのが面倒くさいという気持ちに勝るのではないかと考えました。そして、これは山でも同じことが言えます。綾部市の魅力の一つでもある自然豊かな山の景観をごみは汚してしまいます。これはごみ箱の設置も少し景観を汚すことになるかもしれません。しかし、ごみ箱にきれいな絵を貼る、描くなど工夫によっては景観を保つことはできると思います。ごみ箱の設置場所としては、公道の近くにある公園や登山道に置くのが効果的だと思います。また、ポスターを貼ってごみを減らしていくという手もあります。これは、ポスターに否定的な言葉を加えるよりも、いつもきれいにしてくれてありがとうという肯定的な言葉を使ったほうが効果が高いことが実証されており、効果を高めるための多くの工夫が必要になります。

もしもこれらのことが実現したときには、ごみを無料で捨てられるとなるとそのごみ箱の周辺は少し荒れると考えます。ですが、ポイ捨てされた物が田んぼの水路に入って食べ物の安全性を揺るがすなどいろいろな難点を考慮すると、全体的に見てごみ箱の設置は利点が多いのではないかと私は考えます。綾部市は水源の里トレイルラン、二王門登山レースなど、自然を生かした地域と関わる行事を幾つも行っています。私も１人の綾部市民として、この自然を生かした行事を楽しむためにも、まずはごみを無駄に出さないことや地域のごみ拾いに参加するなど、綾部市をよりきれいにする努力をしようと考えました。そして川だけでなく、山、道もきれいにして、より過ごしやすい魅力的な綾部市であってほしいと考えます。

これで発表を終わります。ありがとうございました。

〇松本幸子議長　　河北ひさ子議員。

〇３番河北ひさ子議員　　玉木君へのコメントをいたします。高橋・河北です。

まず初めに、玉木君が地域課題を選ぶ前に、多くの地域課題がある中でごみのポイ捨て問題に着目した視点がすばらしいと思いました。ふだんなら気づかないことを、総合的な探究の時間を使って地域の課題を見つけようと思ったとき、ペットボトルが落ちていたことに気づいたことはすばらしいアンテナをお持ちではないかと思います。恐らく玉木君は人よりも感性が鋭く、少しの変化に敏感に気づくことができるのではないかと思います。ふだん生活する中で、その感性で苦しくなることがあるかもしれませんが、今後の人生で必ず生きてくるのではと思います。ぜひ大切にしてほしいと思います。

私自身も道路沿いのポイ捨てごみが気になるので、車にごみ袋と火箸を乗せて、時間のあるときは気になるごみを拾っております。現在、綾部市環境市民会議ではごみの問題に取り組んでいます。燃えるごみの中から、生ごみ、古紙、雑紙を取り出して、少なくしよう、削減推進をしております。大人の人が車の中から、自分が食べたり飲んだり、たばこを吸った後、外に捨てられる行動を改めてもらわないと、それを見ている子どもたちも同じように捨ててしまうのではないかと危惧します。ごみマナーを改め、自分の物は自分で最後まで処理してもらうことがとても大切であると考えます。

玉木君はごみが落ちている原因を考えたとき、その仮説として車から捨てられているのではないかということ、捨てるのが面倒くさいという人の心の心理を仮定立てているところも、玉木君の視点がすばらしいと思います。どうすればポイ捨てをなくすることができるのかという課題の解決を考えたとき、ごみを捨てる人の心理、綾部高校が行っている由良川クリーン大作戦と二つの事象をつなげることで、解決に向かうヒントを見つけることができました。クリーン大作戦で６５キログラムのごみが回収されたが、路上のポイ捨て対策には関係ないと感じたとき、正しいところに気軽にごみを捨てられるため、その仕組みができればポイ捨ては減少するのではないかという結論により解決方法を導き出してくれています。

昨今、ごみを出すのにも、ごみ袋を買って決められた日の朝ごみを出さなければならない、面倒くさいと思う人も、ごみ箱のごみを誰がクリーンセンターまで運ぶのかっていう課題もあります。しかしその辺りをこのような議会で綾部市に提案し、市長にも賛同いただき、ごみの収集車がごみを収集するとき、設置してあるごみ箱のごみを収集してもらうための仕組みづくりを検討してもらえば、ごみのポイ捨ても減少していく可能性は広がるのではないかと思います。

このような若い方々が環境のことを考えてくれていることに感謝して、以上で終わります。ありがとうございました。

○松本幸子議長　　では、次の発表者、中川翔太郎議員の登壇を許します。

中川翔太郎議員。

○中川翔太郎議員　　綾部市は、豊かな自然と長い歴史、伝統文化に恵まれた魅力的なまちです。由良川を中心に広がる自然環境や、織物と和紙といった産業の歴史は、綾部市ならではの魅力として多くの人々を引きつけています。しかし、日常生活に目を向けると、特に公共交通機関の利便性が大きな課題となっており、市民の生活のしやすさに深く関わっています。市街地におけるバスの運行本数は、基本的に１時間に１本程度あります。そのため、市街地に住む人々は車を持たなくても病院やスーパーにアクセスしやすく、比較的便利な環境で暮らすことができます。市役所や市立病院、大型スーパーなども駅周辺に集中しているため、徒歩や自転車と組み合わせれば、生活は成り立ちやすいといえます。

一方で、市街地を離れると状況は大きく変わります。郊外や山間部の一部路線では、バスの本数が１日に僅か４本程度しかなく、朝と夕方に偏っていることも多いため、通院や買物に出かける時間が大きく制約されます。高齢者や学生など、車を持たない方々にとっては、自宅から出かけること自体が困難になりやすく、交通弱者とならざるを得ないのが現状です。このように、住む場所によって生活の利便性に大きな格差が生まれている点が綾部市の課題の一つです。

病院へのアクセスについて考えると、この交通事情は特に深刻です。市立病院をはじめ多くの医療機関は市街地に集中しており、郊外に住む方々は通院のたびに限られた本数のバスに依存せざるを得ません。診療時間にちょうどいい便がなく、早く出かけ過ぎて長時間待つ、あるいは帰りのバスがなくてタクシーを使わざるを得ないといった状況が生じています。慢性疾患を抱える方や、定期的に通院が必要な高齢者にとっては大きな負担であり、健康管理の妨げにもなりかねません。改善策として、綾部市では、あやベフロンティアが福祉有償運送制度を活用し、高齢者、障害のある方々の移送サービスが提供されています。しかし、運転手の不足が課題だったり、このサービスを利用できる人が限られていたり、改善策の中でも課題が残っています。そのため、オンライン診療を利用できる環境を整えることや、自宅

からでも診療や薬の処方を受けられるようにする仕組みをつくることも必要だと考えます。

買物の利便性についても同様の問題があります。市街地には大型スーパーやドラッグストアがあり便利ですが、郊外では車がなければ日用品の買い出しすら困難です。特に高齢者世帯では、買物弱者と呼ばれる状況が広がっており、日常生活の質に直結しています。改善のためには、移動販売車の巡回を強化することや、ネット販売と宅配サービスを拡充することが効果的です。市として移動販売という事業を支援することにより、よりこの事業の拡充につながると考えます。また、地域ごとに小規模な直売所やミニスーパーを設置すれば、徒歩や自転車で買物できるようになり、安心した暮らしにつながります。

交通全般の改善策としては、オンデマンド型のデマンド交通や乗合タクシーの導入が現実的です。必要なときに予約すれば柔軟に運行してくれる仕組みは、人口が減少している土地に適しており、綾部市においても導入の効果が期待できます。また、高齢者や学生が安心して利用できるように、交通費の一部を行政が助成する制度を設けることも重要です。こうした取組は、公共交通を持続的に運営するための支えにもなるはずです。

さらに、地域住民同士が協力し合う仕組みも大切です。綾部市では地域交通として行政以外の団体も公共交通として関わってくださっています。こうしたボランティアで支え合う取組はすばらしいものです。しかしながらボランティアであるために、この取組の運営費を支えているのは住民であり、負担にもなります。そこで綾部市として、こうした活動を制度的に支援することで、地域のつながりを強めながら課題を解決できると思います。

交通や生活利便性の問題は単なる移動の不便さにとどまらず、市民の健康や暮らしの質、さらに移住や定住を左右する大切な要素です。綾部市が今後も住みやすく魅力のあるまちとして発展していくためには、自然や文化といった強みを守りながら、生活の不便さを少しずつ改善していく努力が欠かせません。誰もが安心して通院でき、気軽に買物できる環境を整えること。それが市民にとって住み続けたいまちと思える綾部市を築く第一歩になると考えます。

これで私の発表を終わります。ありがとうございました。

〇松本幸子議長　　酒井裕史議員。

〇９番酒井裕史議員　　中川翔太郎議員、発表ありがとうございました。

議員おっしゃられるとおり、公共交通の利便性は綾部市の大きな課題の一つです。私たち綾部市議会も、令和５年に市民と議会のつどいを開催したときに、市民の皆様から公共交通について意見や要望をお聞きし、政策提言を行いました。また、今年度の市民と議会のつどいでも議題として取り上げ、政策提言の報告とその意見を皆様からお伺いしました。

発言の中の病院へのアクセスについてですが、私も持病があり綾部市立病院にはよく通院しておりますが、ふだんの交通手段は自家用車ですので、自分の時間に合わせて行くことが

できます。しかし、車に乗れない方はバスやタクシー、福祉フロンティアの利用などで行くことになります。その場合はバス停までの移動や利用予約が必要となり、少し不便なことはよく分かります。公共交通に関しては、人口減少でのドライバー不足や、自宅からバス停までのラストワンマイルといった課題が大きいと感じております。御提案いただいた中でも、オンライン診療は今後特に重要となるもので、郊外や山間部に住む人たちにとっては有効な手段であります。そういった発想はやはり若い世代の人たちから生まれてくるものです。中川翔太郎議員のような若い人、次の世代を担う人が住み続けたいまち綾部を育てていくのだと思います。中川翔太郎議員も、綾部からこれから出ることになっても、できれば再び戻ってきて活躍してほしいと思います。

今後の綾部市が住みやすいまちとなりますように、綾部市に住む全員で頑張っていきましょう。中川翔太郎議員、本日はありがとうございました。

〇松本幸子議長　　では、次の発表者、吉田碧桜議員の登壇を許します。

吉田碧桜議員。

〇吉田碧桜議員　　先ほど紹介いただきました吉田碧桜です。私は、綾部市を魅力的なまちにするためにというテーマで、今から発表します。

私は綾部市の観光活性化について考えました。綾部市は京都府の北部に位置し、山々や由良川に囲まれた自然豊かな町だと思います。春には桜、夏には蛍、秋には紅葉、冬には雪景色と四季があり、美しい風景を楽しむことができると思います。しかし、京都市や大阪などの有名な観光地に比べると知名度があまりなく、観光客が少ないのが現状です。そこで、綾部市の持つ魅力をさらに生かし、多くの人に訪れてもらえるよう工夫することが大切だと考えます。

まず第一に、綾部市の自然を生かした観光を進めることです。綾部には豊かな山々が多く、由良川ではカヌーや川遊びを楽しむことができます。里山ねっと・あやべでは、農業体験や森づくり体験ができ、訪れる人が自然と人の暮らしの関わりを学ぶこともできます。都会に暮らす人にとって、こうした体験は非日常的で心に残る思い出となると思います。特に子どもたちにとっては、自然の大切さや食べ物が生まれる過程を学ぶ貴重な機会になると思います。

第二に、歴史や文化を生かした観光を進めることが考えられます。綾部市には古い歴史のあるお寺や神社が多く知られています。また、綾部は明治時代にグンゼが創業された地でもあり、グンゼ記念館では近代産業の発展を学ぶことができます。さらに、毎年７月に開催される水無月まつりは綾部の夏を代表する伝統行事です。由良川の河川敷で行われるこの祭りでは多くの屋台が並び、夜には美しい花火が打ち上がります。地元の人だけでなく、近隣から訪れる観光客も多く、綾部のにぎわいを感じることができる行事です。こうした祭りや行

事をもっと広く発信し、ＳＮＳや動画などで魅力を伝えれば、多くの人に綾部を知ってもらうことができると思います。また、地元の高校生や市民がガイドやボランティアとして関われば、地域の人と観光客との関わりも生まれ、観光がより温かみのあるものになると思います。

第三に、特産品と観光を結びつけることも大切だと思います。綾部は綾部茶や黒豆、京野菜など、質の高い農産物に恵まれています。特に上林地区で作られる上林茶は香りが高く、古くから地元で親しまれてきました。観光客が茶畑を訪れ、茶摘み体験をしたり、自分で入れたお茶を味わったりできれば、綾部ならではの体験型観光になると思います。また、綾部産の栗を使ったスイーツや、地元野菜を使った郷土料理を楽しめるお店を増やすことで、食のまち綾部としての魅力を広げられると思います。さらに、お土産として綾部茶スイーツや里山の蜂蜜などを販売し、観光後も綾部を思い出してもらえるようにすれば効果的に伝えることができると思います。

第四に、観光を支える人材の育成と受入れ体制の整備が必要だと思います。観光は地域の人々によって支えられており、ガイドや宿泊施設の運営者など、多くの人が関わります。最近では、古民家を改装した農家民宿も増えており、地元の人と交流しながら泊まれる温かい体験が人気です。観光通じて若者が自分のまちに誇りを持ち、綾部で働きたいと思えるようになれば、まち全体が活気づくと思います。また、Ｗｉ－Ｆｉ環境の整備や、外国語の案内板を設置するなど、外国人観光客にも優しい環境を整えることが今後ますます重要になると思います。

第五に、綾部市だけでなく、周辺地域と連携することも大変必要です。例えば、海のまち、舞鶴市の観光と連携して、海と山の旅としてルートをつくれば、観光客にとってより魅力的な体験になると思います。福知山市の福知山城やスイーツと組み合わせることで、歴史と食の両方を楽しめる広域観光も実現できます。また、あやべ温泉や二王公園などの観光スポットを中心に、近隣市町と協力してイベントを行うことも効果的だと思います。こうした広域的な連携によって、北部京都全体の観光力を高めることができると思います。

私は、観光活性化の最大の意味は、外から人が訪れることによって、地域の人々が自分のまちを誇れるようになることだと考えます。観光客の笑顔やまた来たいという言葉は、地域の人の励みにもなります。観光を通して綾部市の自然や文化が見直され、次の世代に受け継がれていくことは、とても大きな意義があると思います。

以上のことから、綾部市の観光活性化には、自然体験、文化や歴史の発信、特産品との連携、そして広域的な連携という五つの取組が大切だと考えます。これらを一つ一つ進めていくことで、綾部市は訪れて楽しい場所であると同時に、また来たいと思われる地域になると思います。私は観光を通じて綾部市がさらに発展し、人々に愛されるまちになってほしいと

願っています。

以上で発表を終わります。

○松本幸子議長　　梅原哲史議員。

○１０番梅原哲史議員　　吉田碧桜議員、魅力的な綾部のためには大変すばらしい内容でした。

私たちのまち綾部は、黙っていても日本中あるいは世界中から人々が多く訪れるような観光地ではありません。地域の魅力を整理し、その特徴をしっかりと踏まえた観光戦略が必要だと私も常々考えております。

今回の発表は、自然、歴史、特産品、人材、そして近隣地域との広域連携という観光振興の要点を踏まえられています。中でも、観光を通じて地域の若者や人々が自分のまちを誇れるようになることが大切だとの言葉に、私は深く共感いたしました。これは観光だけではなく、仕事や日常の生活も含めて、まちづくり全体に通じる大切な視点です。また、具体的な名称や特産品が例として挙がり、大変分かりやすい提案でありました。自然を生かした体験型観光の発想はとても時代に合っています。

コロナ禍にあって、過密から過疎へ、都会から地方へ、人々の関心は移りました。コロナ禍は収束しましたが、地方での心豊かな体験は今も変わらず求められています。農業体験や森づくり体験は、まさにそのニーズに応えるものであります。歴史や文化を生かしていく視点も非常に重要です。これにより、観光は単なる訪問ではなく、学びの旅へと発展します。さらには、地域の人々の理解と協力に触れられた点、若者や地元の方々を巻き込んでいくことの大切さを述べられた点、大変すばらしいです。そして何より、吉田議員が綾部の未来を真剣に考え、言葉にして伝えてくださったこと自体が、既にまちを元気にしています。まちづくりは行政だけで進めるものではなく、市民一人ひとりの思いや行動があってこそ成り立つものです。吉田碧桜議員、大変お疲れさまでした。

○松本幸子議長　　この際、暫時休憩をいたします。

なお、午後２時５５分から再開し、意見発表を続行いたしますので、御参集願います。

休憩　午後　２時３８分

再開　午後　２時５４分

○松本幸子議長　　休憩前に引き続き会議を開きます。

では、次の発表者、伊藤優花議員の登壇を許します。

伊藤優花議員。

○伊藤優花議員　　綾部高校２年の伊藤優花と申します。私は綾部市のまちづくりについて発表します。

綾部市は四季折々の美しさがある豊かな自然と歴史、人々の温かさに恵まれたまちです。

しかし近年、綾部市も全国の地方都市と同じように、少子高齢化や人口減少といった課題に直面しています。空き家の増加、地域行事の縮小、公共交通機関の不便さなど、日常生活における小さな不便が積み重なり、進学や就職を機に若い世代が都市部へ流出していく現状があります。

私が考える綾部市の将来像は、人が集い活気にあふれるまちです。人口を増やすことだけが目的ではなく、ここに住む一人ひとりが住み続けたい、戻ってきたいと思えるまちになってほしいと思っています。そのために、まちを活性化するための策を考えました。

一つ目は、地域の魅力を再発見し発信することです。綾部には二王門やあやべ温泉、黒谷和紙、農産物など、多くの地域資源がある一方で、知名度は低く、地元に住んでいる人にとっては当たり前過ぎてその価値に気づいていないことが多いです。そのため、地域のよさを見詰め直し、その魅力をＳＮＳをより有効に活用し、外部に伝えていくことが大切だと思いました。単に情報を発信するだけでなく、新たに地元の資源を生かした商品、例えば黒谷和紙を使ったランタンや、綾部産のお茶とグラスやボトルのついたキットなどの商品を開発し、若者の視点で魅力を伝えることで、新たな移住者や観光客を呼び込むこともできると考えました。

二つ目は、教育、交通、福祉、まちづくりといった生活の基盤を整えることです。教育面では、学校や地域の活動を通して、職場体験など地元の企業や大学生と関われる体験の機会を増やしていけばいいと思いました。地元の人が先生となって地域ぐるみの教育が広がれば、ふるさとへの愛着や関心をより育むことができると思います。交通面では、公共交通機関の時間と本数を見直すことが重要だと考えました。実際に本数が少なく不便だという声をよく聞き、車がないと移動することが難しい部分も多いです。交通の便を改善し、市内や隣の市との行き来がしやすくなれば、利用する人も増え、人の移動も活発になっていくと思います。福祉面では、バスの出入口に段差をつくったり、バス停に屋根やベンチを設置すれば、高齢者や学生が雨の日にも利用しやすくなると感じました。最後に、まちづくりの面で、最近はテレワークやリモートワークが広がっており、自然豊かな環境で仕事と生活を両立させたいというニーズも高まっています。また、綾部市は空き家を活用した移住支援なども行っているので、これを元に駅周辺の空き店舗をリノベーションし、若者や移住者が起業や店の展開などチャレンジできる環境を整えれば、新たなにぎわいを生み出すことができると考えました。移住者だけでなく、地元出身の人がＵターンしやすくなるような仕事の機会や、地域とのつながりをつくるイベントも重要だと思います。

三つ目は、空いている田畑を活用することです。最近は物の値段が上がっていて、特にお米の値段が高騰しています。それに加えて、高齢化で作り手がいない田畑が増加しており、今後も増えていくのではないかと予測されます。そこで空いているスペースを活用して法人

化し、市外に売り出していけば、使われてない田畑を活用でき、雇用も生まれるのではないでしょうか。綾部高校由良川キャンパスには農業に特化した学科があるので、さらに連携して取り組めることがあると思います。

これからは無関心でいるのではなく、綾部市が自分の考える将来像に近づいていけるよう、自分にできることを考えて関わっていきたいです。そして、このまちで暮らしていてよかったと思えるような綾部市を残していきたいです。

御清聴ありがとうございました。

○松本幸子議長　　藤岡康治議員。

○８番藤岡康治議員　　伊藤優花議員の発表は、綾部市の現状と課題を的確に捉えた上で、人が集まり活気にあふれるまちという将来像を、具体的な提案とともに分かりやすく示していただきました。

まず第一に、地域資源の再発見と発信という視点が優れておりました。二王門や黒谷和紙など、地元の人にとって当たり前のものに改めて光を当て、若者の感性とＳＮＳの力で魅力を発信するという考え方は、現代的で実現性の高い提案でございました。

第二に、教育、交通、福祉、まちづくりといった生活基盤を丁寧に見詰め、住み続けたい、戻りたいまちづくりという本質的な目標を掲げている点もすばらしいです。特に、地域の人が先生となる教育や、空き店舗のイノベーションによる若者の起業支援など、地域の絆と経済を両立させる視点が光っておりました。

第三に、農業分野に着目し、空いた田畑の活用と雇用の創出を結びつけた発想も評価できます。地元高校の農業学科と連携という具体的な道筋が示されている点がとてもよい点だと思いました。

全体を通じて、データや理屈だけでなく、このまちで暮らしていてよかったと思える綾部にしたいという温かい心が、思いが感じられました。

発表としての構成力、論理性、そして地域への愛情が三拍子そろった、非常に完成度の高い内容でございました。

以上です。お疲れさまでした。

○松本幸子議長　　では、次の発表者、稲垣友菜議員の登壇を許します。

稲垣友菜議員。

○稲垣友菜議員　　綾部高校２年の稲垣友菜と申します。私は特に、綾部市第６次総合計画から、若者の働き方の多様化への対応というテーマで、綾部市のこれからを考えました。

現在の綾部市の課題として、若者の市外流出が顕著であり、進学や就職を機に都市部へ移住してそのまま戻らないケースが少なくありません。総務省や国勢調査のデータによると、１０代後半から３０代にかけての人口減少が顕著であり、地域の将来的な活力の低下が考え

られます。

しかし、綾部市には地方都市としての大きな魅力があると私は考えています。それは自然の豊かさ、人の温かさであると強く感じています。また、生活コストも低く、京都市と比較すると、綾部市は月々の家賃約５万円に対して京都市は約８万から１１万円と低く抑えることができます。生活する上での全体のコストを抑えることができるため、副業や起業のリスクが小さく、挑戦しやすいまちと言えるのではないでしょうか。それに加えて農業や観光、伝統文化など地域資源が豊富で、それに関した創業支援などの制度を生かしやすい環境が整っています。こうした背景と綾部市の魅力を踏まえて現状を打破する政策を二つ考えました。

まず一つ目は、地域チャレンジワーク制度の創設です。この制度は、市内の企業や農家、商店が地域資源や事業課題に基づいた業務を登録し、希望する分野やスキルに応じて希望者が参加します。例えば黒谷和紙などの商品企画や販売支援、農業体験や綾部市を活性化させるイベントの企画などが挙げられます。一見アルバイトのように見えるかもしれませんが、単なる収入目的ではなく、地域課題解決とスキル形成を主な目的としたワーク制度となっています。この取組に対して、綾部市は参加希望者と事業者とのマッチングをサポートしたり、商店や企業などの受入先の登録など、運営体制を整えることが求められます。地域資源を生かした仕事を経験でき、また地域の人々との交流が深く、実際の生活や仕事の手触りが明確に分かるため、若者や移住者が綾部市での生活や働き方に魅力を感じやすくなると思いました。

二つ目は、高校生や大学生を対象としたリモートインターン制度の機会を増やすことです。この制度は、綾部市は地元企業や都市部企業と学生をオンラインでつなぎ実際の業務を体験できる仕組みです。この制度は主に３パターンの例が挙げられます。１パターン目は、地元の高校生、大学生と綾部市の企業とをオンラインでつなげるというものです。そうすることで将来的に地元に関わる意識を高めることができます。２パターン目は、地元の高校生、大学生と都市部の企業とをつなげるというものです。都市部の最新の仕事や技術を学ぶことができ、自分の将来像をより広げることができます。都市部のビジネスを体験することで、地元のよさや課題を客観的に見ることができるきっかけにもなるのではないでしょうか。３パターン目は、都市部に住んでいる高校生、大学生と綾部市の企業とをつなげるというものです。綾部市の魅力や特色を全国に発信することができ、また、将来的な若者の流出を防いで、地域の担い手を育てることができます。この制度に対して、綾部市はオンラインの環境整備や参加企業と学生のマッチングを調整したりすることが求められます。そして、こうした経験は地域との接点ができるため、将来的なＵターン、Ｉターンにもつながっていきます。学生時代に地域企業や団体の仕事に関わっていれば、関わった経験があるという心理的なつながりが残り、次に戻ってくるときに安心感が残ります。私自身もこうした環境があれば、地

元での活動に挑戦しやすくなると考えました。

しかし、これらの制度には課題点も存在します。委託先の企業や地域がインターンシップの受入れに時間や人材の負担がかかったり、そもそもの運営自体にコストがかかってしまうので、参加者が少なければ効率が悪くなってしまうことが予想されます。これらの制度に限らずですが、行政の方々や市民、地域の方など多くの支えによって成り立っているため、受け入れる環境を整えることは非常に大変なことだと思います。まずは小規模の人数から試行するなど、少しずつ工夫を重ねることが必要だと感じました。

このような取組を通じて若者が地域に関わりながら成長できる環境が整えば、将来若者の流出を防ぐことにつながるのではないでしょうか。そして、私自身、地元で働く、Ｕターンするという選択肢もあるということを頭に置き、将来の暮らし方や仕事の選び方に幅を広げられるようにしたいと考えました。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○松本幸子議長　　後藤光議員。

○５番後藤　光議員　　稲垣友菜議員、発表ありがとうございました。若者の働き方の多様化への対応というテーマで、高校らしい若者の視点からのすばらしい御提案でした。

中高生が地域のイベントや企業に関わる現状の取組としましては、綾部中学校では、総合的な学習の時間に、１年生が地域のイベントにボランティアとして参加し、２年生は地域の４０事業所に御協力いただき、職場体験学習をしています。京都府立工業高校では、２年生全員が居住地の企業や市役所などでインターンをしており、綾部市内の企業や綾部市役所でも受入れをしています。また、地元企業の情報を得る機会として、中丹地域高校生企業研究会も開催されています。

御提案いただいた内容のうち、地域チャレンジワーク制度は、ボランティア体験ではない一定の報酬を伴う制度であり、若者がより高い意識で主体的に関わり、地域の問題を知り、解決に貢献してもらうことができると思います。また、リモートインターン制度は、費用と時間を節約しながら綾部の企業を知ってもらうきっかけになると思います。稲垣議員がおっしゃるとおり、事業所の受入れ体制を整える難しさなど課題はございますが、綾部がより若者に選んでもらえるまちとなるよう、御提案いただきました内容を踏まえ、今後議会としても取り組んでいきたいと考えております。

貴重な御提案をいただきました稲垣友菜議員をはじめ、皆さんがこの高校生議会をきっかけに、地方自治や政治により一層興味、関心を持っていただき、これからの時代を担う人材に御成長をされることを願いまして、私からのコメントとさせていただきます。

○松本幸子議長　　では、次の発表者、金田幸太議員の登壇を許します。

金田幸太議員。

〇金田幸太議員　　綾部高校２年の金田幸太と申します。私はグリーンツーリズムによる人口減少対策について発表します。よろしくお願いします。

私たちの住む綾部市は深刻な少子高齢化と人口減少に直面しています。１９５０年の綾部市の人口は５万４，０５５人でしたが、その後人口は減少を続け、今では３万人を切っており、中には限界集落と呼ばれる地域も存在しているそうです。

まず、私はなぜこの約７０年間の中で２万人ほども人口が減ってしまったのかについて、私なりに考えました。

現在の綾部市の問題として一番大きいと思ったのが少子高齢化です。少子高齢化という言葉は、近年日本中のどの地域でもよく耳にする言葉だと思います。少子高齢化というのは、人口に占める高齢者の割合が増加する高齢化と出生率の低下により若者の人口が減少する少子化が同時に進行することを指します。日本の総人口に占める高齢化率は今現在２８．７％に上り、過去最高になっていることが分かりました。また、全国の平均に比べ、綾部は６５歳以上の高齢者の割合が１０％ほど高いことも分かりました。これからも、６５歳以上の人口は増加傾向が続き、令和１８年には３人に１人が高齢者となることが予想されているそうです。

私は、このような現状を改善するために、一つの方法として、グリーンツーリズムが役立つと考えました。グリーンツーリズムとは、農村や自然が豊かな場所で、農業体験や自然体験、地元の人との交流を楽しむ新しい形の観光のことです。単に観光地を訪れるのではなく、地域の人と関わることができるのが特徴です。私は自然豊かな綾部市にとってぴったりな取組だと考えました。まず、グリーンツーリズムは関係人口を増やすことにつながります。関係人口とは、住んではいないけれど、地域の人と関わり続けてくれる人のことです。都会の人の中には、自然や田舎での暮らしに興味を持つ人が増えているそうです。そこで、綾部市で農業体験や伝統文化の体験などを行うことで、都会の人たちは繰り返し訪れてくれるようになるかもしれません。何度も通ううちに、第二のふるさとと感じてくれる人も出てきて、綾部市への移住につながると考えました。

次に、グリーンツーリズムは地域の仕事を増やすことにもつながります。今、農業などの一次産業は、高齢化や後継者不足で元気がなくなっていますが、観光と組み合わせれば新たな仕事が増えます。例えば、農家民宿や農業体験、地元の食材を使ったカフェやレストランを開けば、少しずつ綾部市の一次産業も元気を取り戻していくと思います。実際に僕の家でも農家民宿を行っています。

そこでは、森と生き物に囲まれた大自然の中で田んぼや畑の体験ができるだけではなく、自分たちで採った食材を使った料理を一緒に食べたりなど、綾部市ならではのよさを全身で感じてもらうことができます。このような体験は、自然の中でのんびり過ごしたりすること

は、ふだん都会で住んでいる方にとって、とても貴重な経験になると思うし、綾部市の記憶として残り続けるのではないでしょうか。

もちろん課題もあります。それは、続けていく仕組みをどうつくるかです。イベントだけで終わってしまっては意味がありません。行政や観光協会、農家など、たくさんの人が協力して、長く続けられるような体制をつくることが必要になります。

例えば、インターネットでの予約やＳＮＳ発信を地域全体で共有して行い、誰でも簡単に綾部市というまちを知ってもらうことをできるようにすることで、参加者が集まりやすくなると思います。特にティックトックやユーチューブショート、インスタのリールに投稿し、タップしなくてもスクロールすることで流れてくれるような縦形動画にすることでより広まりやすくなると思います。そうすることで、持続的に綾部市に訪れる関係人口を増やしていけるのではないかと思います。

このように、綾部市の人口減少は深刻な問題ですが、グリーンツーリズムはその解決の一つの道になると考えます。関係人口を増やし、地域の仕事をつくることができれば、綾部市をさらに活気づけることができるかもしれません。課題はありますが、地域と行政が協力し、ＳＮＳを効果的に使うことで、持続的に進められるはずです。この自然豊かな綾部でいろんな人と触れ合い交流できる、そして将来ここに住みたいと思える、そんな活気あふれたまちであってほしいと思います。

これで終わります。ありがとうございました。

○松本幸子議長　　井田佳代子議員。

○６番井田佳代子議員　　金田議員ありがとうございました。

人口減少対策の一つとしてグリーンツーリズムを御提案をいただきました。発言にありましたように、全国平均を上回る高齢化と少子化の中で、綾部市にある自然や農業を生かした観光から関係人口を増やしてはどうかという点で、大いに共感しました。

綾部市は、住んでよかった・・・ゆったりやすらぎの田園都市を掲げて、住民の皆さんや市職員が頑張ってこられましたが、綾部で生まれ育った若い世代の金田議員からの御提案で、取組を継続していくことが人口減少を止めることにつながるという励ましになったと思います。関係人口を増やすための農業体験や、伝統文化の体験の一つとして、黒谷和紙やグンゼ発祥の地として、楮や桑の栽培から始まり、養蚕、機織りも材料を栽培するところから始めることができるのではないかと思ったところです。さらに、新鮮な食材を生かした農家民宿、レストランにつないでいくことで、仕事づくりになっていくという提案もそのとおりだと考えます。そのために長く協力できる体制の仕組みづくりが必要だということについては、やはり行政の役割は重要と感じています。今後も、農家をはじめ住民の皆さんも楽しみながら続けていけるような支援が行政に求められていると考えます。

ＳＮＳの発信について、おっしゃるとおり、今最も重要になっていると思います。グリーンツーリズムの取組に幅広い世代が得意分野に関わってもらえるようになることは、地域のコミュニティーを強くすることにもつながると考えます。将来は進学されるということで、綾部の外からふるさとを見て感じることがあると思います。それをぜひ、ふるさと綾部に伝えていただくようにお願いをいたします。

金田議員お疲れさまでした。

○松本幸子議長　　では、次の発表者、戸川望愛議員の登壇を許します。

戸川望愛議員。

○戸川望愛議員　　綾部高校２年の戸川望愛と申します。私は空き家でつながるというテーマで綾部市のこれからを考えました。

空き家でつながるというテーマは、空き家をこれ以上増やさず、空き家で人と人がつながるような取組を通じ、地域活性化につなげたいという思いを込めています。

私は夏休みにオーストラリアへ留学をし、現地の家庭にホームステイをしました。その経験を通じて、家とは単なる建物ではなく、人と人がつながる大切な空間であると強く感じました。私が滞在した地域では、空き家はほとんど見かけませんでした。その理由として、移住者や留学生を積極的に受け入れる仕組みがあったり、３世代で暮らす家庭が多かったりすることが挙げられると思います。また、オーストラリアでは、留学生や移民の増加に伴って人口、世帯数が増加し、住宅の需要が押し上げられているというのも空き家が少ない理由の一つです。

一方、日本では年々空き家が増加し、使われない家が放置されるという現状があります。私の住む綾部市も例外ではなく、過疎化や少子高齢化による人口減少で空き家が増え続けています。

令和４年の調査では、空き家が１，１４５戸あることが分かっています。そのうち９３２戸は空き家を使用することができ、２１３戸は使用することが難しく人が住むには適さない状態でした。このまま空き家が増え続ければ、防災や防犯のリスク、景観の悪化、地域コミュニティーの衰退など、様々な問題が懸念されます。

このような課題に直面して、私は空き家を住む家として使うのではなく、人々が交流する場として活用していくのが大切だと思いました。

具体的な方法として、私は二つ提案します。

一つ目は、移住交流の拠点化です。学生や若者、外国人を受け入れる仕組みを整え、空きスペースではなく、交流する場として位置づけることで、地域の人口減少を補い、コミュニティーに新しい活気を生み出すことができると考えます。例えば、地域カフェをつくり、地域住民が集まって交流や情報交換ができる居場所となる拠点をつくります。単に飲食の提供

ではなく、絵画や書道、体操教室、おしゃべり会など、誰もが簡単に楽しく参加できる取組を行うことで地域活性化を図れます。

二つ目は、リノベーションの推進です。行政、住民、企業が協力して空き家を修繕、再生し、地域の景観を維持するとともに、地域資源として活用できるようにしていきます。さらに耐震性、耐久性の強化を行い、老朽化した空き家を地震に強い安全な住宅に変えます。

しかし問題点としては、修繕費用、所有者不明の空き家があった場合にどのように対処するか、行政、市民、若者にどのようにして協力してもらうかといった点です。これらを解決するためには、多くの人の理解と協力が欠かせません。そのために、学生や地域の人々がボランティアとして関わり、作業を通じてまちづくりに参加できる仕組みを整えることが大切だと思います。

また、綾部市の自然や環境を守りながら空き家を再生することで、地域の魅力を再発見し、より多くの人が綾部に興味を持ち、訪れてもらえるきっかけになると考えます。最後に、空き家が人と人をつなげ、笑顔を生み出せる存在となり、綾部がより活気あふれるまちになれるよう、私は取り組んでいきたいです。

御清聴ありがとうございました。

〇松本幸子議長　　渡辺小百合議員。

〇４番渡辺小百合議員　　本日は、空き家でつながるというテーマで、綾部市の未来を見据えた御提案をいただき、誠にありがとうございます。戸川望愛議員が海外でのホームステイを通じて、家が人と人を結ぶ大切な空間であることを実感された上で、ふるさと綾部の地域の課題に主体的に目を向けてくださったことに、心から感謝申し上げます。

綾部市では、早くから空き家は貴重な地域資源という考えの下に、空き家の利活用に向けた調査や制度整備に取り組んできました。直近の調査では、市内に活用可能な空き家が１，０００件を超えることが分かっており、地域の将来にとって大きな可能性を秘めた財産であると受け止めています。こうした空き家をいかに再生し次の世代につなげていくかは、今後のまちづくりにおける重要なテーマです。

御提案にあるように、空き家を単なる住まいとしてではなく、人と人がつながる交流の拠点として活用するという視点は、大変すばらしいものです。

これまでも市では、地域に住んでいただき住民との関わりを深めていただくことに力を注いできましたが、一方で、住まいとしてだけでなく、人が集いつながる拠点としての活用にも目を向けることの重要性を感じています。御提案の中で示された、空き家を通じて人と人とが交流し地域に新たなつながりを生み出すという発想は、まさにこれからのまちづくりに欠かせない視点です。地域カフェや交流拠点のような取組を通じて、住民や若者、移住者、外国人など、様々な人が自然に関わり合う場をつくることは、地域に新しい風を吹き込むき

っかけになると考えます。実際に市内では、シャンプーハットのてつじさんが志賀郷の空き家を購入し、綾部のファンを増やすとともに、地域の人とも交流するサードプレイスとして活用されていたり、若者が空き家を自らリノベーションし農業などに関わりながら町なかでカフェを開業するなど、空き家を通じた新しい活動が生まれています。こうした流れを支えながら、地域とともに空き家の新たな可能性を探ってまいりたいと思います。

戸川議員の今回の提案は、地域の現状を的確に捉え、市の未来を前向きに考えた、大変意義深いものです。空き家を通じて人がつながり、笑顔が広がるまちを目指す上で、今後の参考にさせていただきます。

本日はありがとうございました。

〇松本幸子議長　　以上で全ての発表が終了しました。高校生議員の皆さん、どれも大変すばらしい発表でありました。お疲れさまでした。

では、ここからの進行は片岡議会運営委員長に交代いたします。

〇片岡英晃委員長　　高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでした。

それではここで、山崎善也綾部市長から、本日の８人の高校生議員の発表を通してコメントをいただきたいと思います。山崎市長よろしくお願いいたします。

（山崎善也市長登壇）

〇山崎善也市長　　改めて、皆さんこんにちは。綾部市長の山崎です。

どうですか、８名の皆さん、発表し終わってほっとしたかな。緊張が少し解けたって感じかな。高校生でこの議場に入ってこの演台に立って発表する、しかも議長って言って。なかなか経験することはできないと思います。恐らく私も、高校生のときそんな制度ありませんでしたし、こっち側にいる人たちはそういう機会は多分なかった。だから、そういう意味じゃ今皆さん、傍聴してる人も含めて、本当に貴重な経験今日積まれたんではないかというふうに思いますし、また高校生、２年生のときに自分は何を考えとったかなっていうふうにも思い返しましたけど、ふるさとのまちは今後どうするとかああするとか、そんなことをおよそ考えたことがなかったななんて思って、皆さんが本当にこう広い視野を持ちながら、自分たちのふるさとのことをこういう高校生議会という機会を通じて改めて考えられたことに対して、本当に敬意を表したいというふうに思います。また、今日の７５周年の節目の年の事業としてこういう企画をしていただきました関係者の皆さん、また学校の関係者の皆さんにもこの場を借りて御礼を申し上げたいというふうに思います。

ふだんはここ、議長さんを含めて１８人の綾部は市会議員さんいらっしゃるんですけども、そちらの今皆さんがいらっしゃる席に座って、そしてこちらは私とか副市長とかあと各部の部長が座って、そしてそちらから質問を受けてこちらから答弁していくというこういうスタイルで議会というのが運営されております。こういったのが普通年４回開催されてまして、

ここで綾部の重要な大きな決定がされるという場です。ここで、例えば綾部市の来年度の予算をどれだけの規模にするんだとか、どういった分野にどれだけのお金を予算をつけて使うんかとか、あるいは人事面、私は選挙で選ばれる立場なんですけども、例えば副市長の人事とか教育長の人事とか、こういう人事面もここで決まっていきます。そしてまた皆さんに関係するところでは、そうですね、例えば水道料金を何ぼにするんだとか下水の使用料をどうするんだとか、国民保険料をどうするとか、バスの路線をどうしていくかとか、そういったような皆さんの生活に深く関わるようなこともこの場で決まっていくわけです。

市長というのは何でも決めれると皆さん思ってたら大間違いです。私は提案するだけです。こういうふうにしたいんだけどどうでしょうかっていうことを、この場で議員の皆さんに提案します。そして議員の皆さんがそれを審議して議論をしていろいろ質問もされる中で、我々がそれを答えて、そしてその上で、分かったじゃあこの案でいきましょうということを最後決められるのは議員さんなんです。これを二元代表制っていう、難しい言葉でいうんですけども、二つの元気の元ですね、二元、二つ、我々執行者側と議員さん側が議論して決めていく。まさに民主主義なんですけども、これを逆に、いやいや市長そんなことを提案してもこれあかんでというようなことであれば、そちらでノーということも言えるわけです。綾部市の場合あまりそういうもめごとは今までのところはなかったんですけども、名前は出しませんが、近くの市町では、提案してもノーでケッチンを食らうようなことも結構新聞などで出ております。そういう意味では、私はもちろん自分の思いというものは伝えますけども、やっぱりそれを皆さんに、私独りよがりな考えではなくて、みんなにも理解してもらわなくてはいけないんで、そういう意味で事前に丁寧に、誠意を持って議員の皆さんにも納得していただけるようにできるだけ努めておるというのがこの議会の運営の状況でございます。

綾部市は、今第６次総合計画の後期計画というものをつくっておりまして、来年からその後期計画に入っていきます。その中で予算なんかはよく五つのキーワードで編成をしておりまして、一つが医です。お医者さんの医っていう字を使って、地域医療、これには福祉とかも含まれるんですけども、地域医療をどうしていくか、子育ても含めてどうしていくかって福祉の面です。それからもう一つは職、これは職業の職。働く場所をいかに確保していくかっていう意味です。これはもう農業、商業、工業、それから山、林業、それから観光。そういったことも全部含めての働く場所です。そして医・職・住、住って住むっていう漢字を当てて、生活全般、安全安心も含めて、道路をどうしていくかとか下水をどうしていくかとか、インフラの整備なんかが住に含まれます。そして、この三つにさらに教育、まさに皆さんは今教育を受けている。その中でキャリア教育、皆さんインターン制度で職場体験されたこともあるかもしれませんし、国際理解教育、オーストラリアに留学したという生徒さんもいらっしゃいました。そしてふるさと教育。これは綾部のことを知ろう、あるいは将来綾部にや

っぱり帰ってきたくなるような呼びかけ。皆さん中学３年のとき、私皆さんの学校に、１時間だけですけども、行って、綾部の魅力とか、将来皆さんどうしますか、残りますか、一旦出るけど帰ってきますか、もう帰りませんか、そんな話をしたかと思いますけれども、そういう教育の話。そしてこの綾部の魅力を外に向かってどう発信していくか、伝えていくかという情報発信。この五つの分野で綾部市の予算は決めていっております。そういう意味では、今日それぞれ８人から御提案を受けたこの医・職・住・教育・情報発信、大体これにカテゴリーに入ってくるというふうに思いますんで、既にもう実施していることもありましたし、今しかかり中のこともありますし、中には今日、これいい考えだな、いいヒントをいただいたな、そんな提案もありましたんで、これをまた先ほど申し上げました６次の総合計画後期計画の中に反映していければなというふうに思っております。

皆さんはもう来年誕生日が来れば投票権が持てます。皆さんが、だから来年の春にはもう知事選、京都府の知事を選ぶ選挙もありますし、夏には市会議員の選挙もあります。皆さんの１票はここにいらっしゃる１８名の市会議員を決める、そういう決定する１票を皆さんは持つことになるわけです。また、中にはもう自分が議員になろうと、そういう人もいずれ出てくるんではないかというふうに思います。そういう意味でいうと、今日のこういう議場に入りこの演台で発表し、また今日に至るまでワークショップなどしてこのまちのことを考える機会を持たれたということは、本当に私はすばらしいことではないかというふうに思います。

ただ一つ申し上げると、決して評論家にはなってほしくないんです。今日皆さんいろいろ、いろんなアイデア出していただいたんですけども、それを誰が実際にやるんだって、誰が実行するんだっていったときに、いやいやそれはもう私ではありませんっていうことではなくって、やっぱり自分がボールを蹴る、それぐらいの意気込みというか気持ちを持っていただきたい。人口が今確かに減ってます。なぜか。やはり出ていく人が多いからですよね。皆さんやっぱり人口減少心配だけども、でも僕は私は綾部出ていきます。帰ってきません。こうしたら人口がこれからどんどんどんどん減っていってしまうんで、もちろん皆さんのこれからの夢を実現していってほしいし、それを追い求めていってほしいんですけども、一方で今日、こういう職場環境が整えば私はＵターンを考えていますっていうふうにおっしゃっていただいた方もいらっしゃいます。それを自ら他人事ではなくて自分事として、これからまちづくりに一緒になって関わっていっていただければ、私は大変うれしく思うところであります。

あまり長々言うつもりはありません。今日のこの貴重な機会が、これからの皆さんの人生の、本当に一つの、いろんなことをこれから決めていくきっかけになれば、こういう企画をされた方にとっても本望であると思いますし、そのことが実際形になって、このまちがさら

によくなっていくことを祈念して、私からのコメントといいますか、皆さんへの感謝の気持ちにしたいというふうに思います。

本日は誠に御苦労さまでした。ありがとうございました。

〇片岡英晃委員長　ありがとうございました。

以上で、本日予定しておりました全ての日程が終了いたしました。

閉会に当たりまして、綾部市議会本田文夫副議長が御挨拶を申し上げます。

〇本田文夫副議長　それでは皆さん、綾部高校の皆さん、大変長時間にわたりお疲れさまでした。

この綾部市議会の議場という慣れない場所で、また独特な雰囲気の中で、緊張されたことと思います。堂々とした大変すばらしい発表でありました。綾部市で生まれ育ち学ばれている皆さんが、ふるさとを、自分たちが暮らすまちを愛し、将来をしっかりと考えてくれていること、伝わってきました。本当に頼もしく誇らしく思いました。また、市議会といたしましても、本日皆様方が発表されました公共交通、ごみ問題、まちづくり等の、これから議会活動で取り組んでまいりたいと思う内容はたくさんございました。皆さんのそうした意見の中から、必要なことについて、ぜひ綾部市に提案いたしまして、一緒に考えていきたいと考えております。

最後になりましたが、綾部高校の生徒の皆さん、先生の皆さん、アニバーサリー講座から本日の開催まで大変お世話になりました。市議会も愛する綾部市の発展のために、これからも精いっぱい頑張ってまいりたいと考えております。本日の高校生議会が、皆さんとそして綾部市の将来のために実りの多いものになりますことを祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

〇片岡英晃委員長　以上をもちまして、綾部市議会設立７５周年記念「次代を担う高校生議会」を閉会いたします。綾部高校の皆さん、関係者の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。また、山崎市長様、岩本副市長様にも御礼申し上げます。ありがとうございました。傍聴していただきました高校生の皆さんも最後までお疲れさまでした。ありがとうございました。

玄関前にマイクロバスが待機をしておりますので、バスへの移動をお願いいたします。約１０分後の出発を目途としておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、発表いただいた高校生議員８人の皆さんは、この後記念撮影と報道関係の方の取材を受けますのでこの場にお残りください。

本日は誠にありがとうございました。お疲れさまでした。

以上で解散とさせていただきます。

閉会　午後　３時４４分